

暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでいらっしゃいますか？

札幌では、時折お天気が崩れる日もありますが、気温もさほど高くなく、私にとっては快適な毎日です。



7月7日、札幌での「ルーマニアの孤児・貧民のためのチャリティー・コンサート」をもって、今年上半期最後のコンサートを終えることができました。

このコンサートは、AKMM（工藤篤子音楽ミニストリーズ）北海道支援者会の企画によるもので、今回が札幌での2度目のチャリティー・コンサートでした。コンサートには、200名ほどの方々が集ってくださり、199席用意した会場は一杯になり、盛況のうちにコンサートを終了することが出来ました。

会場を提供してくださった札幌聖書キリスト教会、北海道世話人会の皆様、協賛教会の皆様、ご協力くださった皆様、そして祈り支えてくださった皆様、ほんとうにありがとうございました。

今回のコンサートでも、主の恵みを味わわせていただきました。実は、札幌に到着した翌日、花粉アレルギーになりました。原因は、実家近くの公園にある白樺の花粉です。いくら薬を飲んでもくしゃみ鼻水が少しも治まりません。コンサートの二日前には、夜に鼻がつまり、なかなか眠れず、朝起きると喉はガラガラ、とても声など出る状態ではありませんでした。

でも、コンサート前日に雨が降ったのです。それまで石狩平野の強風に乗って舞い上がっていた花粉が地に落ちました。コンサート当日は雨は降りませんでしたが、前日の雨がほとんどの花粉をそぎ落としてくれたのか、薬でアレルギー症状を完全に抑えられる状態になり、問題なく歌うことが出来ました。前日の雨は、私にとって、実に「恵みの雨」でありました。

●チャリティー・コンサート

ところで、私がチャリティー・コンサートを毎年続けるようになったのは、聖書に以下のみことばを発見してからです。

申命記24：19、20、21

あなたが畑で穀物の刈り入れをして、束の一つを畑に置き忘れたときは、それを取りに戻ってはならない。それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。あなたの神、主が、あなたのすべての手のわざを祝福してくださるためである。

あなたがオリーブの実を打ち落とすときは、後になってまた枝を打



ってはならない。それは、在留異国人や、[みなしご](#)、やもめのものとしなければならない。

ぶどう畑のぶどうを収穫するときは、後になってまたそれを摘み取ってはならない。それは、在留異国人や、[みなしご](#)、やもめのものとしなければならない。

上記のみことばを読んだとき、自分の収入全部を自分のものとしなくて、その一部を貧困者のために残しておきなさい、と主は語っておられると思ったのです。そして4年前にルーマニアを訪問させていただいた時に、私は深刻な孤児の現状を知りました。そして、さらに彼らを助けるため多くの収益金を集めたく、チャリティーコンサートを開催するようになりました。

また、以下のみことばに触れたときに、貧困者を助けることは、伝道活動の一部であることを悟るようになりました。

[ヤコブ1：27](#)

父なる神の御前できよく汚れのない宗教は、[孤児](#)や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることで。

イエス様も、パウロもそのほかの使徒たちも、みことばの伝道と共に、貧しい人たちをいつも顧みてきました。

[ガラテヤ2：10](#)

ただ私たちが貧しい人たちをいつも顧みるようにとのことでしたが、そのことなら私も大いに努めて来たところです。

ですからこれからも、主の導きとともに、このようなチャリティー・コンサートを続けさせていただきたいと願っています。

今後とも、よろしくご協力ください。

今、札幌の実家にて、たまっていた事務局の事務処理や原稿書きの忙しい中でも、家族との団欒の時間をエンジョイさせていただいています。

7月21日には、ドイツへ戻りますので、今度はドイツに戻ってからメルマガをお送りさせていただくことになると思います。

暑さの中にいらっしゃる皆様は、どうぞ健康にご留意くださいね。

主の恵みと祝福を心からお祈りしています。

主にあって

工藤篤子